

科学技術振興機構（JST）戦略的創造研究推進事業「さきがけ」

「光の利用と物質材料・生命機能」2023年度発展研究会で思うこと

2024年2月3~4日、直島ベネッセハウス 元研究総括 増原宏（オンライン）

我々のさきがけは、2008年に発足し、2015年に最後の研究者が研究活動を終えた。すでに終了からも8年に以上たっているが、今日の研究会においてもまた「さきがけ」らしい素晴らしい、目が覚めるような成果、展開の講演を聞くことができた。期待以上、予期以上の発展を聞くことができた。まことにうれしい。10人の研究者の講演を聞いて、我々のさきがけは当初のゴールをクリアしたのはもちろん、新しい研究分野の開拓、新規ビジネスの創出、次世代の人材の育成も進めている皆さんの活躍をうかがうことができた。

やはり新しいことは刺激的であり、最も生産的でもある。学理を確立するとよく言われるが、さきがけ研究に携わり、新しい分野を開くとその分野を深めたいくなる。それが科学研究の道かと思う、私もその誘惑にかられた。阪大の応物に着任時（1990年代前半）、一人の修論のタイトルを「高速分光による・・・の確立」と名付けたところ、プラズマ物理の先生から「増原さん、学問に確立なんてあらへんで」と言われた。私としてはある小さい分野の一区切りと思い「確立」とつけて、応物教室の反応を見たが、口悪い先生にからかわれた。今では忘れられないアドバイスと思っている。今日のさきがけ卒業生のプロGRESSは、「・・・の確立」ではなく、「新しいことをさらに新しく拓く」と聞くことができた。

このような素晴らしい研究はさらに続け発展させることが一番のポイントである。私が最近よく YouTube で聴く曲は、（なんとティーンエージャーのころと同じ）朝比奈隆が指揮するベートーベンである。朝比奈隆さんは87歳でシカゴ交響楽団を指揮したとのこと、100人くらいのプロの演奏者を前に練習を重ねたうえでの本番である。私の受ける国際会議への招待講演よりははるかに厳しく、体力と気力がなければとてもかなうことではない。88歳の米寿の時の朝比奈さんは言う、「私は凡人だが、長くやって世界最高齢の現役指揮者になった」と。また、朝比奈さんを指揮者に導いた京大オーケストラ時代の指揮者メッテルさんの言葉を繰り返す、「一日でも長く生きて、一度でも多く舞台に立て」と。私は思う、「われわれのさきがけ研究は全研究人生の積分である」と。

私は阪大退職後、台湾は交通大学で16年目を過ごしている。この間台湾の一人当たりのGDPは今年日本のそれを抜くとのことである。私の住む新竹は台北を抜いて最も収入の多い市になり、豊かになった。街にはいい車が走り、立派な高層マンションが立ち並ぶ。研究室の院生の学力、英語力は伸び、研究のセンスもよくなった。おまけに背まで高くなった。日本は停滞しているという状況判断に最近賛成せざるを得ないことが多くなったが、しかし日本の希望はさきがけの皆さんの活躍にあると信じ、祈念している。